



幼保連携型認定こども園
尚絅大学附属こども園

初任の頃の教頭先生は、
私のクラスの授業（卒業式

「ほめてのばす」「いのちの難しや」

これは、私が小学校に勤めていた時に書いた拙文です。「ほめるこ

ば、恥ずかしかったからです。
て経験がなかったからです。

そして

と」は、だれに教わっても、どの本にも大切だと書いてありますが、なかなかできませんでした。もし子育てに少しでも参考になれば幸いです。

ほめることができるようになることだと思っています。(叱ることができるようになることも負けずに大きなことですが…)

くんの輝いている表情……忘れられ
ません。私はその時、「指導し（叱
り）ながら、ほめること」を学びま
した。

そして、人前で圖をまめること

冒頭にあるイラストは、担任をしているとき使っていた「よい子カード」です。二校目で出会った先生のようになかなかできない私が、ちよつとも苦手を克服したいと思っ

私は、ほめることが大の苦手でした。

学生の頃までは、ほめる行動よりも、どちらかといえば（受験や試験、部活などで）人と競うことを中心にがんばっていた私たちが、

の意義を学びました。

二校目で出会った同学年の女の先生は、私だったら見逃してしま

て、学年主任の先生がされていたのを真似て始めたものです。人のほめ方と同じである必要はないと今

…ほめているつもりが、「やろ
うとすればできるのに、何や日頃
は…」とけなしてしまったり、『○
くんが(いいこと)したとつびっ

今度は、教師になった途端、競うこと(運動会などで競うこともありますが…)よりもどちらかといえよ認めまめることが仕事になって

うことも、気づいてはじめておられませんでした。そのような先生はそれまでもいたのですが、その先生は特別でした。何がすごかったかといえ

も思いますというより、自分にはできないと思うことも多々あります。ただ、子どもの変化や成長に気づくこと、それに感動すること、そ

た。』と皮肉って終わ

このギャップに苦悶したのは私だけでしょか。

「あ、この人はほめなければならぬ。助かされたか、自然な態度で見て思っているのではない。心が

てい
るこ
は共
通し
とそ
れ

結局まめな

ほめるのが苦手だった私ですが

「ているのだ。」

とだと牛すな辺

い方が、よっ

いづれの先生方と知り合ふ中で

と思ったことです。そこには「演

輩や同僚

ぽどよかつ

学んできました。子どもの心に届

技」の「え」の字もありません。

から学びたい。
まじった。
実習の

肉って終わ
ったり……
結局ほめな
い方が、よ
ほどよかつ
た、という

このキャップに苦悶したのは私だけでしょか。

ほめるのが苦手だった私ですがいろいろな先生方と知り合う中でそれぞれの先生のほめる姿を見て学んできました。子どもの心に届

思つてはめているのではない。心が動かされたから自然と態度で現れているのだ。」



実習の先生とすな遊び

は共通して
いるこ
とだと生
輩や同僚
から学び
ました。

※原文では〇〇は「教師」ですが「親」にも通じるところがある気がします。

- （自分を好きな子）に育ててほしい。だから、ほめるのである。（ほめられることで自尊心が育つ）
- 叱りたくなったときこそ、ほめる材料を探そう！（あいさつをしない子がいたら、あいさつが上手な子をほめる）
- 毎日の努力が習慣になるまでほめ続ける。（ほめられたい気持ちが継続につながる。ありがとうが一番うれしい言葉）
- ほめる材料がないときは、受け入れる。共感的な対応を心がける。（安心感をもたせる）
- けんかは、仲直りできたことをほめるいい機会である。（「だって…」の「…」に耳を傾ける）
- めざすべきは“笑顔の身だしなみ”がステキな〇〇である。（〇〇の表情で空間の天気が決まる）
- 子どものよさを、具体的行為を示してほめる。そして、その行為の奥にある人間としての美しさをほめる。